当地区社協の現状から市社協との連携を探る

100 号を記念し海津市社協森会長と対談

本号が発行 100 号となるのを記念し、4 月 30 日、朝日均当地区社協会長と森廣美海津市社協会長との対談を行いました。地区社協の意義は何か、現状と課題を踏まえ、今後、市社協との連携をどのようにしたらよいのかを目的にしたところですが、関係するボランティアさんはもとより、地域の方にもご一読いただければ幸いとの思いで詳述することとしました。

左・朝日会長、右・森会長

地区社協の位置づけ―地区社協への期待

―司会（鈴木編集長）まず、森会長に伺いますが、地区社協はどんな位置づけで設立されたのでしょうか。そして、地区社協に何を期待されるのか、ご説明いただければと思います。

森　地区社協では地域での福祉課題や生活課題への支えあいや助け合いの活動と事業を互助・共助の視点で住民主体で展開しておられます。市社協と地区社協はそれぞれの課題を解決する上で、相互に補完しあう水平的なパートナーの関係で市社協は地区社協の運営をバックアップし、基盤強化につながるように支援します。

―司会　「互助」という言葉ですが、その考え方をお聞かせください。

森　この前の能登半島地震の例ですが、孤立する集落が続出しました。そうした地域では地震直後は隣近所が助け合って急場をしのがれました。このことから自助と共助の間に互助が必要と考えられます。

石津地区社協の取り組み状況

―司会　地区社協の位置づけについて、活動する中で検討すべき課題かと思いますが、森会長のご発言を受けて当地区社協の活動の現状を朝日会長から披露していただきます。

朝日　4 つの専門部会がそれぞれの取り組みを展開する体制です。一つは高齢者支援部会で高齢者移動サービスとサロンの運営を行っています。高齢者移動サービスは利用者 100 名。病院への送迎が利用の 80%で、買い物、公共施設への送迎が続きます。高齢化を反映して利用者は増加傾向です。関わるボランティは運転が 20 名、受付が 25 名です。サロンは昨年 6 月に再開し、毎回、50～60 名の参加です。

二つは世代交流部会が行っている児童生徒の地域学習への手伝いで、小学 5 年生を対象とした米作り、1 年生と子ども園年長さんを対象のサツマイモ作りを行っています。

三つは防災・地域安全部会の取り組みで、スクールボランティア、青色防犯パトロールによる小学生の登下校時の見守り活動、また、青パトはゴミの不法投棄に対する監視、徘徊などでの行方不明者捜索で行政、警察に協力していますし、防災活動では防災士と連携し、例えば避難所の体験など区・自治会との橋渡しなどを行っています。

四つは総務部会で、諸会議の準備と運営、事務所のメンテナンス、会計処理など、多岐にわたる課題の処理を担っています。また、広報も部会の一部門で、機関紙「地区社協だより」を年 6 回発行しています。

市社協から見た石津地区社協の評価

―司会　当地区社協の活動の現状を紹介させていただきました。これらに対してどのように評価されているか、聞かせいただけますか。

森　次の点から最も先進的な地区の一つだと言えます。一つは他の市町村からも注目されている送迎サービス。各地で始まった「ライドシェア」に見られるように海津市でも最も高い課題となっています。

二つ目は児童・生徒の地域学習の実践で、米作りやサツマイモ作りは文科省も力を入れている素晴らしい体験教育だと思います。

三つ目はスクールボランティアと青色防犯パトロール活動及び防災の取り組みです。

石津地区社協は先進的な地区の一つと森会長

（裏面に続く）

（前ページから）
これらは地域全体で子どもたちの安全を守る体制ができていますし、地域の安全、防災力の強化に寄与されています。

また、広報活動については 16 年以上にわたって広報紙の発行を続けられ、地区社協の活動への理解と協力が促進されるための重要なツールとなっていると思います。今後ますますの活動発展に期待しています。

左・朝日、中・鈴木、右・森の各氏

課題はボランティアの若返りなど

―司会　大変なお褒めをいただきました。しかしながら課題はあるわけで、朝日会長から抱えている課題について紹介させていただきます。

朝日　最大の課題はボランティアが高齢化していることで、区・自治会にお願いして若い方の発掘に努めているのですが、最近は定年延長などで「リタイア」の年齢が高くなり、なかなか若返りができない状況です。

二つ目は事務所経費です。老朽化してその経費の捻出に益々頭を悩ますことになります。

地域の各種役員との連携の深化も

三つ目は民生・児童委員さんをはじめ地域の役員の方との連携をどのように深めるかということです。例えば高齢者の送迎では「介護や介助を必要としない方」との条件で引き受けるのですが、年齢を重ねるうちに介助が必要になって、買い物の際は荷物を持ってあげたり、あるいは買い物以外でも手を差し伸べる必要が出たり、場合によっては耳が聞こえなくなって一方的に要望のみ言って電話を切ってしまうなど、想定できなかった事態が発生しているのですが、そうした個人の困りごとは地域の民生・児童委員、区・自治会の役員さんなどの方が情報は早いので、利用者情報の共有など、その連携がより強く求められるようになってきました。ボランティアの若返りについて、区・自治会の協力を得るための連携は先に述べたとおりです。

地区社協と市社協との連携の方向

―司会　地区社協の必要性や活動の現状、その評価と課題などについて意見交換してきましたが、これを踏まえて今後、市社協と地区社協がどのように連携を深めたらいいのでしょうか。

朝日　例えば「先進的な地区社協」を紹介してもらうとか、地区社協の運営にまつわる細かな指導をお願いできないでしょうか。

森　まず後継者不足の問題ですが、多くの団体が悩んでおられる課題です。一人暮らしの高齢者が増え続ける中で孤立や孤独を防ぐためにも社会参加活動など「人と人とが関わり合う機会」をより多く作ることが必要です。

「細かな指導」についてですが、地区社協は住民意識を出発点として地域の課題を地域の人々が互いに協力し合ってその解決を図り、住みよい福祉の街づくりを目指して設立されたものです。補助金申請の方法やアドバイスなどは今後も支援しますが、基本的には申請者にて作成していただきたい。

藤谷課長　先進的な地区社協の紹介について、何を学びたいのかを具体的に教えていただければ紹介することが可能です。防災の学習会などについて、地区社協が突出するのではなく関係機関（市、防災士会、区・自治会など）と連携して取り組むのがいいと思います。

―司会　市社協との連携の方向について、具体的に聞かせていただきました。他の地区社協の紹介、防災の取り組みについてはアドバイスを踏まえて取り組みたいと思います。それでも、例えば細かな指導については地区社協で専従者を配置できればそれに越したことはないのですが、ボランティアという性格上それは無理ですし、ボランティアの若返りも含め当面する「永遠の課題」として悩みながら進むしかないのだろうと思います。いずれにしましても市社協の基本的なスタンスと私共の現状などについて忌憚のない話し合いができ、大変、有意義な対談ができたものと思います。森会長を始め、市社協の 5 名の皆様には貴重な時間を割いていただいてありがとうございました。

右奥・小粥努さん、左奥・三木事務局長をはじめ市社協の皆さん

（写真・丹羽勝）